

直播栽培情報

平成30年7月25日
宮城県石巻農業改良普及センター
石巻地方米づくり推進本部
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

乾田直播栽培の生育状況

- ◎ 草丈は、平年値(ひとめぼれ)と同じかやや長くなっています。
- ◎ 茎数は、ほ場によって大きな差が見られますが、最高分げつ期は平年値より早くなっています。
- ◎ 葉色は、ほ場によって大きな差が見られますが、7月19日現在で平年値を下回っています。
- ◎ 幼穂長は、6.4mmから49.1mmとほ場によって大きな差が見られます。生育が進んでいるほ場はすでに減数分裂期に達していると推測されます。

表1 乾田直播ほ場の生育調査結果(7月19日現在)

品種	調査ほ場	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ	石巻市桃生	68.9	520	10.4	37.2	7.9
	石巻市大谷地	61.5	362	11.7	35.6	6.4
ササニシキ	石巻市須江	66.6	850	11.9	31.2	49.1
	東松島市大塩	64.6	473	11.2	35.2	9.7
(参考) 平年値(ひとめぼれ)	石巻市桃生	63.2	517	10.8	37.8	9.4

※平年値(ひとめぼれ)は、普及センターで石巻市桃生に設置している水稻直播栽培技術普及展示ほの平成24年から平成28年までの5か年平均値

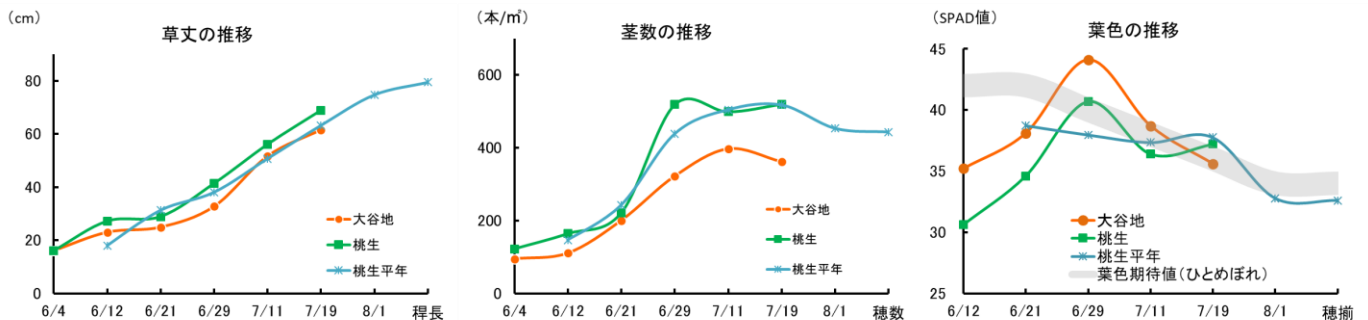


図1 生育の推移 (ひとめぼれ)

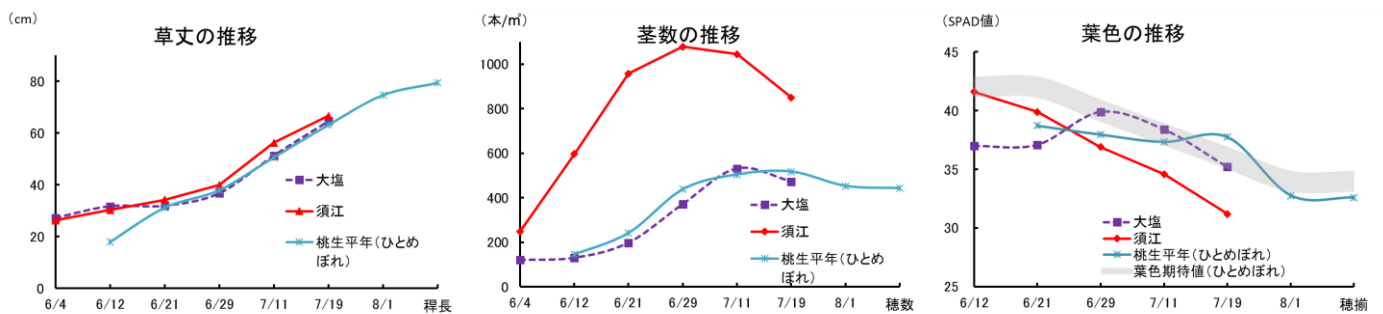


図2 生育の推移 (ササニシキ)

技術対策

1 出穂期予想

◎ 7月19日現在の直播栽培生育調査ほの幼穂長から判断して、生育が早いほ場では8月初めに収穫期に達すると予想されますが、平均的には8月7日前後に収穫期に達し、移植栽培より3日程度遅れると予想されます。

2 病虫害防除

(1) いもち病

- ◎ すでに直播栽培で葉いもちが確認されています。ほ場を見回り発病を確認した場合には直ちに茎葉剤を散布しましょう。
- ◎ 箱処理剤を施用していない直播栽培では、いもち病が発生しやすいことから、発生が予想される場合には穂いもち予防剤を散布しましょう。

(2) 斑点米カメムシ類

- ◎ 斑点米カメムシ類の防除は移植栽培と同様、薬剤防除は「穂揃期」と「その7～10日後」の2回が基本です。
- ◎ 直播栽培は移植栽培に比べて収穫期が遅れる傾向があるので、散布適期を把握して防除しましょう。

(3) イネツトムシ

- ◎ 直播栽培は一般ほ場より生育ステージが遅く、葉色が濃いためイネツトムシ（イチモンジセセリ）による被害を受けやすく、昨年も管内で被害を受けたほ場がありました。
- ◎ 薬剤防除を行う場合は、小さい幼虫（若齢～中齢幼虫）がいくつか葉を巻いている様子（写真1）が確認された時が防除適期です。



写真1 イネツトムシによる被害
(左)と若齢幼虫のツト(上)